

目次

前編 近代スピリチュアリズム百年史	33
-------------------	----

はしがき	35
------	----

第一章 スピリチュアリズムの揺籃時代	40
--------------------	----

第一節 スピリチュアリズムは世界の要求	42
---------------------	----

歴史はどのように発展するか

教会の没落

スピリチュアリズムの足場

衰退から破綻へ

心霊現象の研究はじまる

第二節 スピリチュアリズム以前の時代——46

霊能の衰退

古代文明時代の霊交

旧約時代

新約時代

キリスト教時代

第三節 二人の偉大な先覚者——51

エマヌエル・スウェーデンボルグ

スウェーデンボルグの教え

霊の世界とは

アントン・メスマル

第四節 アンドリユー・ジャクソン・デービス——56

最初の近代的な支配霊

スピリチュアリズムの生誕の予言

スウェーデンボルグとガレン

デービスの大きな業績

靈感による著述

第五節 近代スピリチュアリズム運動の発端——60

フォックス家

ケイトとマーガレットの通信

最初の調査委員会

霊界通信の発見とその方法の創出

最初の一般公開

第六節 米国スピリチュアリズムの開拓者——65

エドマンズ判事

ヘヤー教授

ハドソン・タットル

ピーブルス博士

第二章 十九世紀の霊媒と研究 71

第一節 偉大な霊媒たち——72

ダニエル・ダグラス・ホーム

デビッド・ダギッド

ヘンリー・スレイド博士
ウイリアム・エグリントン

第二節 有名な婦人霊媒 ————— 76

フロレンス・クック
レオノア・E・パイパー
ユーサピア・バラディノ
エリザベス・デスベランス夫人

第三節 科学者達によるスピリチュアリズムの採用 ————— 81

A・ラッセル・ウォレス博士
ウイリアム・クルックス卿
W・F・バレット卿
レーリー卿

第四節 心霊研究の成立 ————— 86

英国心霊研究協会 (SPR)
フレデリック・W・H・マイヤース
エドマンド・ガーニー
ヘンリー・シジウィック

リチャード・ホジソン博士

第五節 十九世紀の指導者達 ————— 90

エンマ・ハーディング・ブリットン

ウイリアム・ステイントン・モーゼス

ウイリアム・T・ステッド

アルフレッド・キトソン

第六節 諸国のスピリチュアリズムの研究 ————— 96

アラン・カーデック

エルネスト・ボザノ

シュレンク・ノッチング博士

アレクサンダー・N・アクサコフ

第三章 二十世紀のスピリチュアリズム 101

第一節 この時代の指導者達 ————— 102

アーサー・コナン・ドイル卿

アーネスト・オーテン

ハンネン・スワツハー

ドウディング卿

第二節 ロッジ、クロフォード、カーリントン、ヘッティンガーの業績

106

オリバー・ロッジ卿

W・J・クロフォード博士

ヒヤワード・カーリントン博士

J・ヘッティンガー博士

第三節 スピリチュアリズム関係の著者

110

ジョージ・ヴェイル・オーエン師

W・H・エバンズ

アーサー・フィンドレー

ドレイトン・トーマス師

第四節 輝かしい霊能者達

115

トム・チレル

グラデイス・オズボーン・レナード夫人

エステル・ロバーツ夫人

ヘレン・ヒューズ夫人

第五節 かわった型の霊媒達

—————
120

ウイリアム・ホープ

ジェラルディン・カミンズ嬢

フランク・リー

ハロルド・シャープ

第六節 アメリカの物理的霊媒

—————
125

エタ・リート夫人

ジョージ・バリアンタイン

マージャリー・クランドン夫人

カーロ・ミラベリ

第七節 心霊治療

—————
131

W・T・パリシ

C・A・シンプソン

W・H・リレイ

ハリー・エドワーズ

第四章 スピリチュアリズム運動の発展……………137

第一節 イギリスにおける組織的運動……………138

組織

自由のための奮闘

教育の必要

将来への準備

第二節 キリスト教スピリチュアリズムの台頭……………143

ゾージャクとモーイス

世界キリスト教スピリチュアリスト連盟の誕生

G W C S L の信仰

その組織

第三節 セオソフイ 神智学協会……………147

H・P・ブラバツキー女史

神智学協会

インドにおける詐偽

アニー・ベザント夫人

第四節 心霊研究協会（SPR）—— 152

創立

思想伝達の研究

十字通信

SPRの態度

第五節 アメリカのスピリチュアリズム運動—— 157

霊界の指導者

一八九三年 NSA会議

統計

現在のNSA

第六節 過去の教訓—— 162

強く、雄々しい時代

新世界

衰退の最初の徴候

キリスト教的スピリチュアリズムと神智学

空虚な教会

新しい時代

意義深い二つの事件

根本的な転換の必要

何を為すべきか

将来の計画

近代スピリチュアリズム百年祭

ビガースの演説

ヘレン・ヒューズの公開実験

ベンダル氏の演説

ヒッチコック氏の演説

エステル・ロバーツの公開実験

スワツハー氏の演説

百年史年表

187

173

後編 スピリチュアリズム思想の歴史……………199

第一章 スウエーデンボルグ……………201

聖書の解釈

神愛と神智

神の内在概念

照応の教理

天国と地獄

夫婦愛

第二章 アンドリユー・ジャクソン・デービス……………209

第一節 神の調和概念……………210

新しい啓示の必要

	神の科学的概念	
	神の調和哲学概念	
	無限の智	
	神の個性性	
第二節	霊・魂・体	215
	調和哲学は進歩の哲学	
	健康	
	人霊の源	
	眠りと死	
第三節	霊性の進歩	220
	意志は自由か、決定されているか	
	決定論は人間的	
	愛と智	
	調和	
第四節	霊の不滅性	224
	神力原理	

媒体の更新

霊的親和力

霊の世界の起源

第三章 近代スピリチュアリズムの思想

.....
231

第一節 アラン・カーデック ————— 232

スピリチズムの起源

スピリチズムの思想

暗示が生んだドグマ

第二節 ブラバツキー ————— 236

神智学の教説

カルマ

カルマは何ものも創らず

霊との交信

論理的・科学的・道義的

自我の定数

カルマで決まる運命

動物と人間の我

再生と再生の間

再生の記憶

第三節 ステイントン・モーゼス

—————
246

靈訓

永遠の進歩

法則違反

婚姻の結びつき

宗教

神の観念

祈り

キリスト教

真実の償い

第四節 ヴェイル・オーエン

—————
256

ペールの彼方の生活

高級な霊達

光と波動

霊姿

地獄

天国

霊よりも崇高な

第五節 W・H・エバンズ

262

近代の使徒デービス

調和哲学の講演

神とは何か

科学の聖書

善と悪

意志は自由か、決定されているか

第六節 アーサー・フインドレー

267

波動する宇宙

心は創造者

心は物の主人

宇宙と心

利己と利他

幾多の変化

理解を超えた宇宙

エーテル界

再生

第四章 結語

新時代の心靈哲学

地上の闘い

更に愛と英知を

永遠の生命

宇宙主義

279

訳者あとがき

286